

1 学校教育目標

○やさしく ○かしこく ○たくましく

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちにとって、学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校 ○ 子どもたちにとって、安全で安心感のもてる学校 ○ 保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校 ○ 教職員にとって、教育者としての喜びが味わえる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ やさしく…互いの人格を尊重し、心豊かな子 ○ かしこく…自ら学び、よく考えようとする子 ○ たくましく…目標をもち、最後までやり遂げる子 健康な生活を送ろうとする子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己研鑽に努め、キャリアに応じた力量を身に付け、プロとして専門性の高い教師 ○ 児童・保護者・地域の願いを受け止め、深い児童理解ができる教師 ○ 教育公務員として、組織の一員として課題解決に努め、協働して職務を遂行できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

- 明るく素直で人なつこい児童が多く、あいさつができる児童が比較的多い。
- 学校教職員の連携・組織力の向上
- 地域・保護者の皆様は、開かれた学校づくり協議会を中心に学校教育への協力があり、コロナ禍でも常に学校を見守っていただいている。

<成果>

- 「鹿浜五色桜子どもガイドブック」遵守
- 課題解決的な学習足立スタンダードの実施・ノート指導の定着
- オリ・パラ教育のレガシーの形成
- 体育発表会・展覧会等の学校行事の成功
- 安定した学校生活(高学年が全校児童の手本 学力向上へ)
- 情操を育てる美しい学校環境の維持

<課題>

- 知・徳・体バランスのとれた児童の育成
- 課題を解決して主体的に学ぶ力と人間関係形成力の育成

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校		○	○	○	○
3	保護者・地域と共に育てる学校		○	○	○	○
4	オリ・パラ教育	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
自ら学び考えようとする子の育成	区学力調査通過率 85%	4月 国： 73.4% 算： 73.4% 2月 国： % 算： %	自ら学び考えようとする児童は増えている。 できる・できないの二極化が見られる。	○

	アクション プラン	対象 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AIドリル の活用	国・算・ 社・理・ 英 全学年	通年	授業中の学習内容の定着 さくら教室 宿題	学力調査	通過率 85%	学力調査 通過率 国：73.4% 算：73.4% AIドリル 強化月間 一人あたり300問 達成した。	AIドリルが日常化と なり授業中、家庭学 習でも活用してい る。	○
2 継続	さくら教室 (放課後補 習教室)	全学年 算数・国 語 学力テス ト目標値 未滿 単元テス ト正答率 70%未滿	毎週 月・金 放課後 30分 (教科は 隔月交 代)	【指導者体制】 担任+専科サポートメンバ ー4名 【取り組みのねらい・目的】 つまずきをさかのぼり、演習 を中心に個別もしくは少人 数指導。進度は各個人で異な るが、復習問題は、期間内に 終了するように、1日に進め る目安は伝える。 【使用教材】 区調査の過去問及び類似問 題プリント、ベーシックドリ ル	学力定着度確 認テスト (10月2月 実施)	通過率 85%	・毎週火・木の放課 後に実施。 ・前期は区調査で誤 答した問題の解き直 しを行う。 ・夏休み以降は授業 やワークテストにお いてつまずいている 児童を対象に個別指 導を行う。 ・後期は次の学年の 過去問及び類似問題 に取り組む。	・時期に応じて課題 や対象児童を変えて 取り組むことができ た。 ・副担任が指導に入 り、サポート体制を 整えることができ た。 ・曜日にこだわらず、 週2回実施した。	◎

3 継続	サマースクール	全学年 算数国語 学力テスト目標値未満 各学年 10名程度。	夏季休業日中の10日間 各日 50分	<p>【指導者体制】 学年の先生+他学年の先生+専科サポートメンバー4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 担任の少人数指導のもと、進める。区学力調査復習問題集を進めながら、前学年の学習内容について、復習をしながら、定着を図る。復習問題が終わった時は、夏休みの宿題冊子等で、現学年の学習内容の復習を行い、定着を図る。</p> <p>【使用教材】区学力調査復習問題集・夏休みの宿題冊子</p>	区学力調査 再調査	目標値通過率 85%	<ul style="list-style-type: none"> ・10日間実施した。 ・7月までの学習内容の補習的活動。特につまずきを感じる児童を対象とする。学習プリント・AIドリルを活用して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数を中心に中間層の児童を対象に実施した。 ・5・6年生はAIドリルを活用し個別最適な課題に取り組むことができた。 	○
4 新規	家庭学習の手引き発行・活用	全学年 全員 各教科 自学自習	年3回 4月、9月、1月	<p>【取り組みのねらい・目的】 自学自習力の向上 家庭学習強化月間とし、宿題の提出率を各教科で確認する。提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。</p>	宿題提出状況 調査	宿題提出率90%	宿題提出率90%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習旬間を年3回実施した。 ・取り組みを掲示し、意欲を高めたり、内容を改善したりすることができた。 	○
5 継続	かけ算九九検定・補習	算数 第3学年以上 九九に課題のある児童	年2回 個人面談中	<p>3年生以上の学年を対象に、かけ算九九の定着ができていない児童を対象に少人数で指導にあたる。</p> <p>【使用教材】 かけ算九九表・かけ算プリント・100ます計算プリント</p>	かけ算定着テスト	正答率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月に実施。 ・各学級正答率100%にし次年度へ引き継いでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強くチャレンジをして合格することができた。 	○
6 継続	小中連携 合同研修	各教科 全教員	年6回	研究授業 授業参観 情報交換	週案 授業観察	全員参加	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科分科会の指導の重点を設定し、小中それぞれ研究授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通実践事項を設定して取り組めた。 ・児童生徒の情報交換も活発にできた。 	◎

7 継続	校内研究	算数科 全教員	各学年 研究授 業1回	算数科に教科を設定し、主 体的、対話的で深い学びを 目指し研究授業を行う。	授業研究 授業観察	全員参加	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して同じ講師の先生にご指導いただいた。 ・1単位時間の流れを重点とし授業改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の視点を明確にしたことで、協議会の意見交換も活発になった。 	◎
---------	------	------------	-------------------	---	--------------	------	---	--	---

重点的な取組事項－2		児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境を確立する。							
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度	
児童にとって安全・安心で元気な学校生活を確立する。いじめ解決100%を目指す。		保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答90%以上		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の90%が、安全・安心に関する項目に肯定的な回答をした。 		安全な学習環境の整備、人権教育の充実を図ることができた。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度	
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決 ・自己肯定感の醸成を図りいじめ防止を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・1月現在、いじめ調査で対応継続案件はあるが、ほぼすべて解決済み。 ・全学級で児童にSOSの出し方指導、生命の安全教育を実施した。 		児童のトラブルについて早期発見し、組織的に対応できた。		○	
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検 ・施設の不備に関する早期改修 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の98%が、学校施設の美化の徹底に肯定的な回答をした。 ・毎月、全教職員で分担して施設点検を行い、早期改修に努めた。 		毎月の点検だけでなく、主事が清掃する際、床や壁の剥がれなどにすぐに気付き、対応したことで良好な環境づくりができた。		◎	
あいさつの徹底	児童評価で元気よくあいさつができる児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶（毎日） ・代表委員会によるあいさつ運動 ・来校者へのあいさつを各学年で指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員が校門で挨拶を実施した。 ・元気よくあいさつができる児童85% 		代表委員会のあいさつ運動が、各学級も実施したいと声があがり、学校全体の取り組みとなった。		◎	

体力向上	自己目標を80%の児童が達成	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通じた体力向上 持久走・なわとびタイムの設定 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間の終わりに2分間走や短縄タイムを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動とすることで、児童が継続して取り組み、体力向上を図ることができた。 	○
------	----------------	--	---	---	---

重点的な取組事項－3	保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。
-------------------	--------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上	「保護者・子どもたちの相談を受け止め、真摯に対応している」90%、「地域の活動に参加している」36%	・保護者との学年行事、地域との行事にすすんで関わることができた。	◎

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、保護者会の内容の改善充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、運動会や学習発表会について、できる限り保護者に公開した。各学級90%以上の保護者が参観した。 「熱意をもって教育活動している」92% 	・保護者会の参加人数が少ないので、今後も内容の改善に努める。	◎
P T Aや開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動への協力 各学年の活動との連携 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aや開かれた学校づくり協議会と連携し、G O フェスタや土曜スクールを開催した。 「P T A活動に参加している」48% 	・P T A行事や土曜スクールの予定を年度の初めに設定したことで、連携しながら計画的に開催することができた。	◎
体験的学習場面や地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくり	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年1回以上	<ul style="list-style-type: none"> TGG など体験的な校外学習の実施 P T A・開かれた学校づくり協議会との連携による学習場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 「TGG」「マジックショー」「大根掘り」等体験的な活動を多く実施した。 開かれた学校づくり協議会と連携し「花いっぱい活動」「ボッチャ教室」を開催した。 	・地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくりを展開する。「キャリア教育」「環境教育」等、実社会に関連の深い学びの充実を図っていく。	◎

オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進	オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進の自己評価85パーセント以上	オリ・パラ教育の実践自己評価85パーセント以上	・各教科の学習内容・活動に「東京2020レガシー」を関連付け取り組むことができた。実践自己評価80%	・教科等を横断して取り組むことができた。児童にとって本物体験を増やしていく。	○
---------------------------	---	-------------------------	--	--	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

①学力向上アクションプランについて

【課題】・国語・算数ともに昨年度の数値を下回った。学習の定着状況に大きな課題がある。

【対策】・授業では、足立スタンダードの徹底を図る。児童が興味関心を引くような導入から問題解決型の授業を展開していくよう指導する。

・補習学習では、学力調査の結果から児童のつまづく単元の系統性を明確にし、基礎・基本の徹底や弱点を克服する。

・個別指導では、ICTを活用し児童の定着度を把握し、AIドリルの積極的な活用等で、個別最適な学びを実現していく。

②児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境の確立について

【課題】・年度内のいじめ解決率が100%に達していない。

【方策】・担任と保護者の連携により、いじめの早期発見、早期解決に努める。

・次年度の学年、学級へ確実な引継ぎを行う。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

・PTA組織が充実しており、たいへんまとまっていて協力的である。PTA行事も計画的に実施することができた。特にG0フェスタは盛況でPTAと地域教職員が一体となり盛り上がった。その他、運動会、学習発表会、学校公開など大きな行事での協力体制が素晴らしく円滑に行事を運営することができた。

(3) その他（学校教育活動全般について）

・引き続き学力向上、安全安心な学校、地域保護者と子供を育む学校の3本柱で来年度も学校教育活動を進めていく。